



黒見 久美子 議員



行政区、自治会等のデジタル化について

問 人口減少や高齢化、ライフスタイルの変化により、行政区、自治会への加入が減少している。加入により、さまざまな課題や問題も発生している。デジタル技術を活用し、負担軽減を進めていくべきである①デジタル化に向けて電子回覧板などの導入について②共助の仕組みの見直しや再構築について所見を伺う。

答 (市長) ②地域全体でメリッ

※高次脳機能障害…脳の損傷に起因する認知障害全般のこと

トを感じられる支援制度の再構築や、市からの依頼業務を見直し持続可能な行政区、自治会の確立に向け取り組んでいきたい。

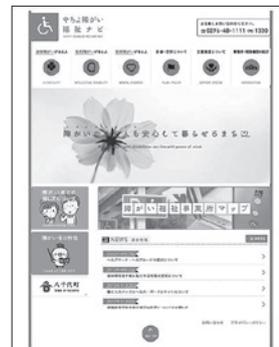
答 (市民部長) ①独自に導入・活用している自治会を参考に、市民が身近に情報収集できるよう支援していきたい。

福祉情報発信の充実について

問 よりよい福祉サービスの情報を、すぐに得やすい発信が必要である①ホームページ上に障がい福祉ナビとしての単独掲載について②高次脳機能障害^(※)など周知が必要である。チラシ等の配布について伺う。

答 (福祉部長) ①障がい福祉の関連情報を整理し、市民が求め

る必要な情報を容易に取得できるよう、ホームページの改善に取り組んでいく。②茨城県高次脳機能障害支援センターが作成したチラシを、障がい福祉課の窓口で配布している。今後は、ホームページや広報も活用し、周知していく。



八千代町公式ホームページより

《その他の質問》

- ・自転車用ヘルメットの購入費助成について



高橋 秀彰 議員



心身障がい児者等の歯科診療体制の充実について

問 心身障がい児者等の口腔ケアや歯科疾患の予防、治療、口腔健康管理などの歯科診療は、さまざまな障がいの特性により、困難を伴う場合が多い状況である。こうした中、心身障がい児者等の歯の健康を保つためには、家族や医療関係者等が連携し、障がいの程度や全身疾患の有無、食生活習慣等を把握するなど、それぞれの状況に応じた対応が必要であり、歯科診療や歯科保

健指導などが市内において、身近に受けられる歯科診療体制の充実が喫緊の課題である。本市では、今後、あらゆる手立てを講じ、心身障がい児者等の歯科診療体制の充実に取り組む必要があると考えるがどうか。



答 (市長) 心身障がい児者等が、身近な場所で治療を受けられるよう、歯科医院設置の要望があることは十分に認識している。設置に当たっては安定した運営体制等、課題が多いことも事実

であるが、心身障がい児者等が住み慣れた古河市で安心して生活できるよう、今後も県への要望、歯科医師会との協議を深め、実現に向けて検討を進めていきたい。

答 (福祉部長) 令和元年度に行った市内歯科医院等に対するアンケート調査によれば、回答のあった47カ所のうち、10カ所程度の医院が障がい児者を受け入れている。また、受け入れについて、関心を持っている歯科医院が一定数存在していることが分かったので、市内歯科医院等での受け入れを促進できないかと考えている。

《その他の質問》

- ・マンションの適正管理について